

株式会社トランスジェニック(証券コード 2342)

第10期 報告書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

 **Trans Genic Inc.**

～人々の健康と豊かな暮らしのために～



Trans Genic Inc.

CONTENTS

株主の皆様へ	P2
業績のご報告	P3
セグメント情報	P4
連結財務諸表	P5
個別財務諸表	P7
トピックス	P8
事業領域	P9
収益構造の転換	P10
研究開発プロジェクト		
会社の概況	裏表紙
株式の状況		
株主メモ		
IRからのお知らせ		

経営理念

生物個体からゲノムにいたる

生命資源の開発を通じて

基盤研究および医学・医療の場に

遺伝情報を提供し

その未来に資するとともに

世界の人々の健康と豊かな

暮らしの実現に貢献する

株主の皆様へ



代表取締役社長

是石 匠 宏

株主の皆様には日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
第10期連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

当連結会計年度における当社グループは、製薬企業や大学等の研究機関に対し、新薬開発の探索や基盤研究に有用な遺伝情報、受託サービス及び基礎研究用試薬を提供するとともに、当社グループが保有する技術等のライセンス許諾に向けての取組みなども積極的に進めてまいりました。

売上高につきましては、当社グループが保有する遺伝子破壊マウス及び遺伝子破壊ES細胞のライブラリー「TG Resource Bank[®]」を通じて、顧客に生命資源を非独占的に情報提供及び使用権を許諾するビジネスが製薬企業向けに一定の成果を上げたものの、製薬企業2社向けの遺伝子配列情報を提供する契約から派生する業務の受注が一巡したことや、受託サービス業務においては、顧客である製薬企業等の研究開発スタンスの変化や大学等研究機関の予算執行を手控える動きを受け低調であったことなどにより、売上高は332百万円と同期比76.4%にとどまりました。

損益面では、研究開発拠点の集約化などコストコントロールを徹底し圧縮に努めた結果、営業損失は前年同期比26百万円改善の644百万円、経常損失は前年同期比23百万円改善の659百万円となりました。

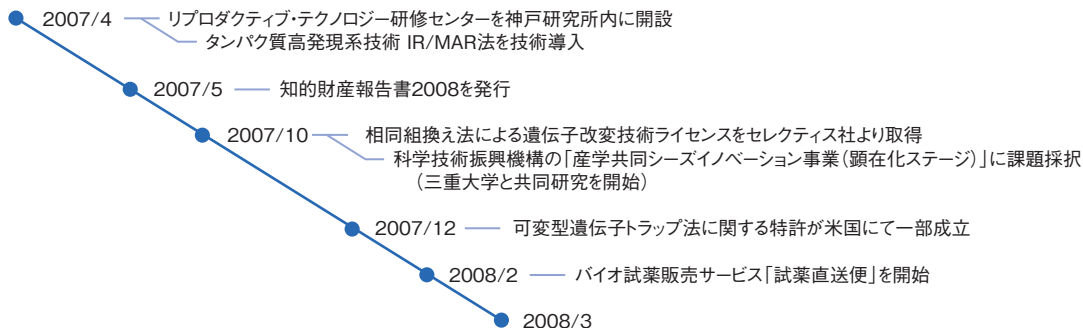
また、特別利益として持分変動利益を20百万円計上した一方、遺伝子破壊マウスの飼育管理等にかかる業務委託契約解約損70百万円及び固定資産にかかる減損損失168百万円を特別損失として計上した結果、当期純損失は884百万円となりました。

今後は「TG Resource Bank[®]」を基にした使用権許諾やこれに伴うマテリアル供給による収益、これまでに蓄積した技術・ノウハウを活用した新規の受託事業及び研究開発の成果としての製品売上、ロイヤリティ収入を着実に拡大し、より早期の黒字化に向けて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、こうした当社の姿勢に何卒ご理解を賜り、一層のご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

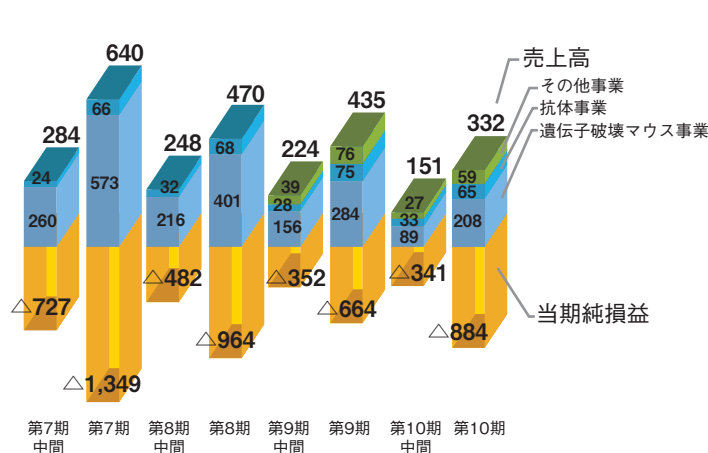
平成20年6月

第10期の取り組み

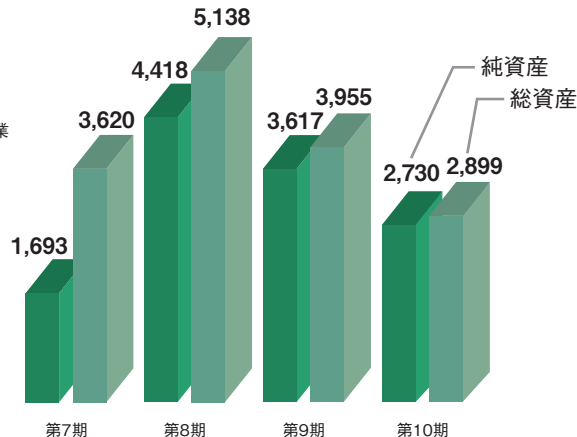


業績のご報告

売上高・当期純損益 (単位: 百万円)



純資産・総資産 (単位: 百万円)



学会参加・広報活動

2007/04	科学技術振興機構主催「大学発ベンチャー活性化シンポジウム」 第59回日本産科婦人科学会総会・学術講演会
2007/05	第40回日本発生生物学会・第59回日本細胞生物学会 合同大会
2007/06	第6回国際バイオEXPO
2007/08	第25回日本受精着床学会総会・学術講演会
2007/10	第66回日本癌学会学術総会 全日本科学機器展 in 大阪 2007, 「新産業を創る先端科学技術フォーラム2007」 第21回国際哺乳類ゲノム会議
2007/12	第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会

製品・サービスの拡充

2007/04	リプロダクティブ・テクノロジー研修センターを神戸研究所内に開設し、研修サービスを開始 研究用試薬 抗GPR40抗体を発売
2007/07	研究用試薬 多刺激受容体 TRPチャネル関連抗体を発売 タンパク質高発現細胞作製受託サービス「MARX™」を開始
2007/09	研究用試薬 抗HIV抗体を発売 研究用試薬 抗ヒトマクロファージ関連抗体を発売 研究用試薬 抗AGEs関連抗体を発売
2007/10	研究用試薬 尿中腫瘍マーカージアセチルスベルミジン測定キットを発売
2007/11	研究用試薬 抗ヒトマクロファージ関連抗体を発売
2008/02	バイオ試薬販売サービス「試薬直送便」を開始
2008/03	研究用試薬 抗ヒトCD抗体を発売 研究用試薬 AGEs抗原を発売

海外企業との提携

2007/11	ジェンター社製品を取扱い開始 イェーナ・バイオサイエンス社製品を取扱い開始
2008/02	バイオロン社製品を取扱い開始 ユーロクローン社製品を取扱い開始 イノーババイオサイエンス社製品を取扱い開始 シグナルウェイ社製品を取扱い開始

セグメント情報

遺伝子破壊マウス事業

可変型遺伝子トラップ法*を用いて作製した「生命資源 — 遺伝子破壊マウス・遺伝子破壊ES細胞 —」の拡販を推進

TG Resource Bank®*を当社ウェブサイトに公開するとともに、国立遺伝学研究所が運営する「JMSR*」に記載されました。ライフサイエンス研究などに当社が作製した生命資源を活用いただけるよう、系統毎の使用権を許諾しています。

相同組換え法による遺伝子改変技術ライセンスをセレクティス社*より取得し、お客様の研究を強力にサポート

ジーンターゲティング法*を用いた遺伝子破壊マウスの作製を製薬企業・研究機関より受託しています。競合他社に先駆け、作製に必要な技術に関するライセンスを取得し、お客様の研究開発の飛躍的な進展や効率化をサポートしています。

- *可変型遺伝子トラップ法 : 遺伝子破壊マウスを効率的に作製するために発明された方法
- *TG Resource Bank® : 遺伝子破壊マウス約700系統・遺伝子破壊ES細胞約2000クローンの遺伝子情報を納めたライブラリーの呼称
- *JMSR : 国内の研究機関や企業が保有するマウス・ラットの系統情報を統合的に検索できるシステム
- *セレクティス社 : フランスの著名な研究機関パスツール研究所からのスピンオフにより設立したバイオベンチャー
- *ジーンターゲティング法 : 遺伝子破壊マウスを作製方法のひとつで、相同組換え法を用いてある特定の遺伝子を狙って破壊する方法

抗体事業

尿サンブルによる癌診断薬開発プロジェクト 診断薬開発が進行中

尿中腫瘍マーカー*「ジアセチルスベルミン」に対する抗体を用いて、複数の診断薬開発メーカーが体外診断用医薬品の開発を目指した検討を行っています。先行する1社とライセンス契約を締結しており、診断薬開発が進行しています。

GANP®マウス技術*ライセンスビジネス 3件のライセンス契約を締結し、製品開発が進行中

GANP®マウス技術*を用いて作製した抗体について、製薬企業・診断薬開発メーカー・公的研究機関で71件のプロジェクトが進行しています。先行してフィージビリティースタディー*が終了した3件のプロジェクトでは、GANP®マウス抗体を用いた製品開発が進行しています。

抗体作製関連技術プラットフォームの拡充と活用

GANP®マウス技術*、DNA免疫法*に続き、タンパク質高発現系技術*を導入し事業化しました。これらの先端技術から成る技術プラットフォームを活用し、癌・糖尿病・メタボリックシンドロームなどの基礎研究に有用な抗体試薬を開発・製造・発売しています。

- *尿中腫瘍マーカー : 腫瘍の進行および退縮にもなって尿中の排泄量が増減する物質
- *GANP®マウス技術 : GANP遺伝子が過剰に働くマウスを用いて抗体を作製する当社独自の技術
- *フィージビリティースタディー : 事業化についての可能性をあらゆる角度から検討すること
- *DNA免疫法 : 遺伝子を動物に投与し、その動物の体内で抗原を発現させることにより、抗体を作製する方法
- *タンパク質高発現系技術 : タンパク質の製造に広く用いることができる基盤技術、IR/MAR法

その他事業

生殖工学関連の技術*・ノウハウを活用し、研修事業を開始

神戸研究所内にリプロダクティブ・テクノロジー研修センターを開設し、生殖補助医療従事者や実験動物関連技術者を対象とした研修事業を行なっています。

海外企業との提携を積極的に推進し製品・サービスの領域を拡大、ライフサイエンス研究をトータルにサポート

当社の遺伝子改変マウスおよび抗体を研究に使用されるお客様の多様なニーズにお応えできるよう、また、国内のライフサイエンス研究の潜在的なニーズにもお応えできるよう、海外企業との提携を積極的に進めています。

研究用試薬 サイトカイン*の販売 (株式会社プライミュン)

2006年5月に子会社化した株式会社プライミュンは、研究用試薬サイトカイン*を癌免疫療法分野へ販売しています。

- *生殖工学関連の技術 : 実験動物・産業動物の分野のみならず不妊治療など生殖補助医療分野でもそのニーズは高まっています
- *サイトカイン : 細胞が産生するタンパク質のひとつで、細胞同士のコミュニケーションを司り、その増殖・分化や機能発現に関わるタンパク質

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	前連結会計年度 平成19年3月31日現在	当連結会計年度 平成20年3月31日現在
(資産の部)		
流 動 資 産	3,042,176	2,216,972
固 定 資 産	913,726	682,483
有 形 固 定 資 産	578,998	361,764
無 形 固 定 資 産	226,473	200,019
投 資 そ の 他 の 資 産	108,254	120,699
資 産 合 計	3,955,903	2,899,456
(負債の部)		
流 動 負 債	338,446	159,050
固 定 負 債	—	9,586
負 債 合 計	338,446	168,636
(純資産の部)		
株 主 資 本	3,614,593	2,730,130
資 本 金	4,855,225	4,855,225
利 益 剰 余 金	△ 1,238,849	△ 2,123,312
自 己 株 式	△ 1,782	△ 1,782
評 価 ・ 換 算 差 額 等	—	△ 2,037
そ の 他 の 有 価 証 券 評 価 差 額 金	—	△ 2,037
少 数 株 主 持 分	2,864	2,726
純 資 産 合 計	3,617,457	2,730,819
負 債 純 資 産 合 計	3,955,903	2,899,456

連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	前連結会計年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	当連結会計年度 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
売 上 高	435,567	332,848
遺伝子破壊マウス事業	284,264	208,754
抗 体 事 業	75,034	65,063
そ の 他 事 業	76,267	59,031
売 上 原 価	229,156	175,859
売 上 総 利 益	206,410	156,989
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	877,340	801,526
営 業 損 失	670,929	644,537
営 業 外 収 益	33,844	18,326
営 業 外 費 用	44,964	32,819
経 常 損 失	682,049	659,030
特 別 利 益	27,423	20,032
特 別 損 失	2,438	238,728
税 金 等 調 整 前 当 期 純 損 失	657,064	877,726
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	6,811	6,874
少 数 株 主 利 益 又 は 少 数 株 主 損 失 (△)	365	△ 137
当 期 純 損 失	664,241	884,462

連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

当連結会計年度 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

	株 主 資 本				評価・換算差額等		少数株主 持 分	純 資 産 合 計
	資 本 金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合 計		
平成19年3月31日 残高	4,855,225	△1,238,849	△ 1,782	3,614,593	—	—	2,864	3,617,457
連結会計年度中の変動額								
当期純損失		△ 884,462		△ 884,462				△ 884,462
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額 (純額)					△ 2,037	△ 2,037	△ 137	△ 2,175
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 884,462	—	△ 884,462	△ 2,037	△ 2,037	△ 137	△ 886,638
平成20年3月31日 残高	4,855,225	△2,123,312	△ 1,782	2,730,130	△ 2,037	△ 2,037	2,726	2,730,819

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	前連結会計年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	当連結会計年度 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 528,843	△ 534,951
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,240,915	273,577
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 324,000	△ 214,000
現金及び現金同等物の増減額 (減少：△)	1,388,071	△ 475,373
現金及び現金同等物の期首残高	583,894	1,971,965
現金及び現金同等物の期末残高	1,971,965	1,496,591

個別財務諸表

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	前期	当期
	平成19年3月31日現在	平成20年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	3,016,379	2,192,908
固定資産	942,569	721,189
資産合計	3,958,949	2,914,097
(負債の部)		
流動負債	337,469	157,134
固定負債	—	9,586
負債合計	337,469	166,720
(純資産の部)		
株主資本	3,621,480	2,749,415
資本金	4,855,225	4,855,225
利益剰余金	△ 1,231,962	△ 2,104,028
自己株式	△ 1,782	△ 1,782
評価・換算差額等	—	△ 2,037
その他有価証券評価差額金	—	△ 2,037
純資産合計	3,621,480	2,747,377
負債純資産合計	3,958,949	2,914,097

損益計算書

(単位：千円)

科 目	前期	当期
	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで
売上高	395,845	308,468
遣伝子破壊マウス事業	284,264	208,754
抗体事業	75,034	65,063
その他事業	36,545	34,651
売上原価	220,635	166,779
売上総利益	175,209	141,689
販売費及び一般管理費	856,557	783,390
営業損失	681,348	641,701
営業外収益	50,126	27,425
営業外費用	9,698	1,468
経常損失	640,919	615,744
特別利益	17,840	—
特別損失	137,002	249,635
税引前当期純損失	760,082	865,380
法人税、住民税及び事業税	6,604	6,685
当期純損失	766,687	872,065

株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	当期 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)							
	株 主 資 本				評価・換算差額等			純 資 産 計 合
	資 本 金	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合 計	
その他利益剰余金 繰越利益剰余金		利益剰余金合計						
平成19年3月31日 残高	4,855,225	△ 1,231,962	△ 1,231,962	△ 1,782	3,621,480	—	—	3,621,480
事業年度中の変動額								
当期純損失		△ 872,065	△ 872,065		△ 872,065			△ 872,065
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)						△ 2,037	△ 2,037	△ 2,037
事業年度中の変動額合計	—	△ 872,065	△ 872,065	—	△ 872,065	△ 2,037	△ 2,037	△ 874,103
平成20年3月31日 残高	4,855,225	△ 2,104,028	△ 2,104,028	△ 1,782	2,749,415	△ 2,037	△ 2,037	2,747,377

トピックス：遺伝子破壊マウス？抗体？

『何に役立つの？』『どこで使われているの？』といったお問合せを頂きます。中間報告書*に引き続き、ご説明させていただきます。

*中間報告書は、当社ホームページ内IRライブラリーよりご確認ください。本ページと合わせてご参照ください。

ライフサイエンス研究の進展

実験動物として—企業や大学などの研究室で

ライフサイエンス研究において、ヒトでは試せない研究には、一般的にマウスが用いられています。また生命の誕生・病気・老化など生命現象における遺伝子の機能を解明するために、遺伝子改変技術が確立されているマウスは強力な研究ツールなのです。

しかしながら、その開発にはES細胞の操作や生殖工学技術など多くの先端技術やノウハウ、専門の飼育施設が必要となります。当社は、研究の目的に応じた各種遺伝子改変マウスを最短時間でお届けしています。



基礎研究の
飛躍的な進展や
効率化をサポート

研究用試薬として—企業や大学などの研究室で

病気の発症・進行にともなって増減する物質など、研究の対象となる物が、どこにどれくらい存在するかを調べるためなど、さまざまな目的に応じて抗体は開発され、試薬として広く使われています。

当社は、癌・糖尿病・メタボリックシンドロームなどの基礎研究に役立つ抗体試薬をお届けしています。

これは、当社が開発した抗体を用いて、糖尿病性腎症患者さんの腎臓組織を染色した写真です。糖尿病に関与することが明らかになっている物質が、この患者さんの腎臓に確かに存在することを証明しています。



創薬研究ツールとして①—製薬企業で

創薬研究において、創薬ターゲット遺伝子の絞り込み・探索同定は重要なプロセスです。このプロセスにおいて遺伝子改変マウスはさまざまな研究のもと活躍しています。



研究の目的によっては、マウスは人間ドック以上にさまざまな検査を受けることとなります。これは、学習能力を解析するために用いる水迷路です。

迷いながらもゴールまで泳ぎきった経路を遺伝子改変マウスが記憶しているかを検査します。



検査薬・診断薬シーズとして —診断薬開発メーカーで

抗体は、検査薬や診断薬にも広く活用されています。食品の品質管理や水質検査など様々な分野の検査において、また悪性腫瘍やウイルス感染の疑いがある際に医院で受ける臨床検査において、重要な役割を果たしています。

当社は、検査薬・診断薬開発の決め手となる抗体を開発し、提供しています。現在、診断薬開発メーカーとともに尿サンプルによる癌診断薬などの製品開発を進めています。

創薬研究ツールとして②—製薬企業で

遺伝子改変マウスや疾患モデルマウスを用いて、開発した薬の有効性確認がなされています。このような創薬研究においてもヒトでは試せない実証的研究を行うための研究ツールとして、マウスはとても重要な役割を担っています。

当社は、アトピー性皮膚炎によく似た症状を自然発症するマウスや日周期リズムが夜型に変異した夜型マウスのほか、研究目的に応じた各種遺伝子改変マウスをお届けしています。

創薬研究の
飛躍的な進展や
効率化をサポート

医療の進歩

抗体医薬として—製薬企業で

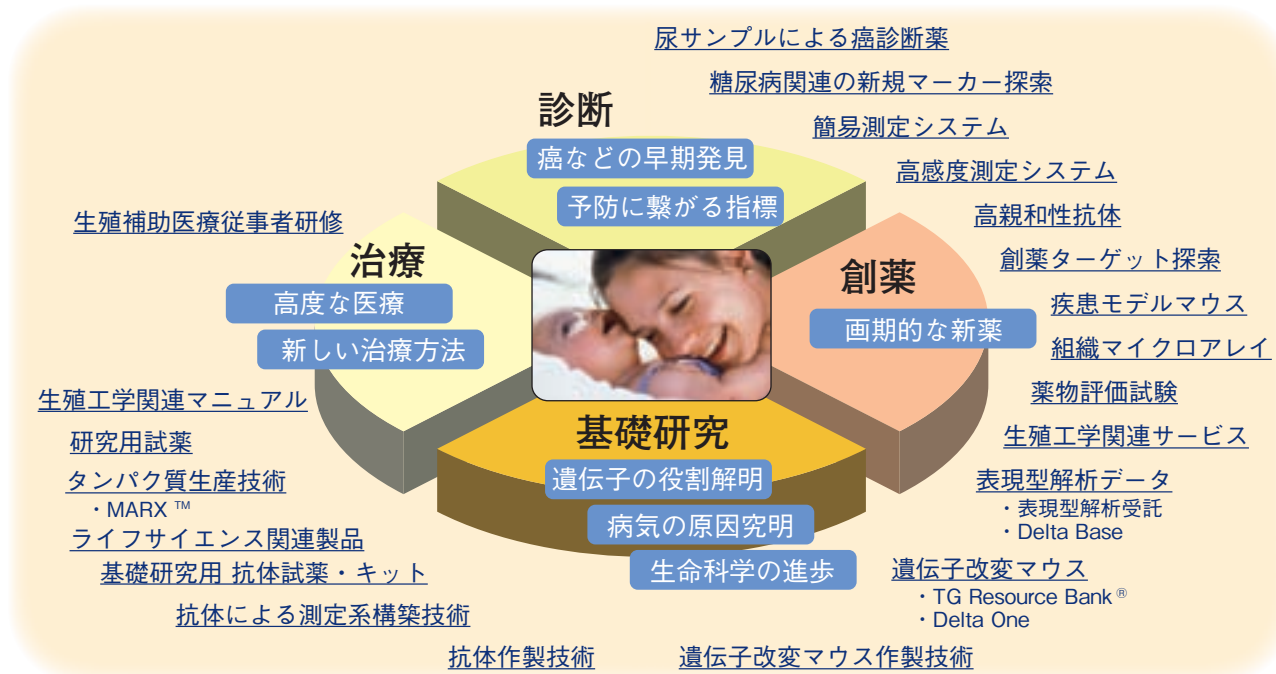
抗体は病気の治療に役立つ可能性を秘めています。日本で抗体が医薬品として認可されている例は、まだ数えるほどです。

よく効く薬がない病気を克服するために、製薬企業は抗体医薬の開発を視野に入れ研究開発を進めています。

当社は、抗体医薬となりうる抗体を創出することをめざし、独自の技術やノウハウを活用した研究開発を日々進めています。

事業領域

トランスジェニックは、基盤研究および医学・医療の場に
新しい価値を創造する製品・サービスを提供し、
皆様の健康と豊かな暮らしの実現に貢献します



遺伝子の機能を解明することは、ライフサイエンス研究の進展や医療の進歩に貢献します。
この研究のための有力なツールとして、「遺伝子改変マウス」や「抗体」が広く活用されています。
当社はこれらの領域において、次の4つの技術をコア・コンピタンスとし、事業を展開しています。

トランスジェニックのコア・コンピタンス

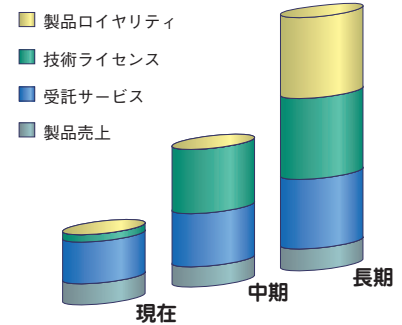
- 1 「遺伝子改変マウスを作製する技術」
- 2 「遺伝子改変動物の表現型を詳細に解析する技術」
- 3 「抗体を作製する技術」
- 4 「抗体を用いて測定系を構築する技術」

収益構造の転換

ライセンスビジネス推進による収益構造の転換

ライフサイエンス産業においては、事業の中核をなす知的財産の確保が成功への鍵といえます。当社は自社単独の技術開発に加え、社外からのライセンスインを積極的に進め、製薬企業などの製品開発に用いられる技術を開発してまいります。

さらに、技術を提供するだけでなく、エンドプロダクト（診断薬・医薬品）の創出に直結する創薬ターゲット・診断薬シーズの探索を行っており、技術ライセンス収入に加えて、製品ロイヤリティが将来の収益基盤として寄与することが期待されます。



研究開発プロジェクト

研究開発Ⅰ コアコンピタンスを強化する新規技術の獲得

プロジェクト 1:	高親和性抗体作製技術 — GANP [®] マウス技術 —	2003年 4月 事業化
プロジェクト 2:	新免疫法 — DNA免疫 —	2006年10月 事業化
プロジェクト 3:	タンパク質高発現系 — IR/MAR法 —	2007年 4月 事業化
プロジェクト 4:	実験動物関連新規技術の開発	
プロジェクト 5:	新規抗体スクリーニング技術の開発	
プロジェクト 6:	抗体関連のタンパク質工学的手法の開発 — in vitro 抗体作製技術、キメラ抗体作製技術 —	
プロジェクト 7:	魚類による抗体生産系の構築 (2007年10月より開始)	

研究開発Ⅱ エンドプロダクト（診断薬・医薬品）の創出

診断薬

プロジェクト 1:	尿による癌診断 簡易測定システムの開発
プロジェクト 2:	糖尿病関連物質 測定システムの構築
プロジェクト 3:	新規癌マーカーの探索とその測定システムの開発

医薬品

—創薬ターゲット探索・同定—

プロジェクト 1:	オーファン受容体の機能解析
プロジェクト 2:	ヘテロダイマー認識抗体の作製

会社の概況 (平成20年3月31日現在)

会社名	株式会社トランスジェニック
ホームページ	http://www.transgenic.co.jp
設立	平成10年4月
資本金	4,855百万円
従業員数	41名
事業所	
本社	熊本市南熊本三丁目14番3号
福岡支店	福岡市中央区天神一丁目1番1号
神戸研究所	神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
東京オフィス	東京都中央区京橋三丁目9番2号

役員 (平成20年6月25日現在)

代表取締役社長	是石匡宏
専務取締役	田中淳
取締役	佐藤道太
取締役(非常勤)	山村研一
常勤監査役	増岡通夫
監査役	遠藤了
監査役	佐藤貴夫

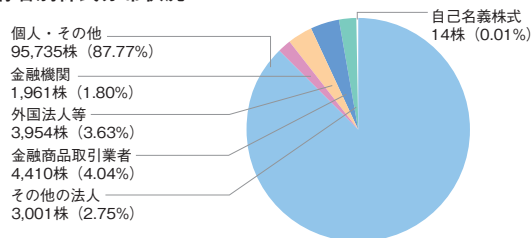
株式の状況 (平成20年3月31日現在)

発行可能株式総数	436,301株
発行済株式の総数	109,075株
株主数	12,347名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
是石匡宏	3,649	3.34
野村證券株式会社	1,403	1.28
日本生命保険相互会社	1,350	1.23
松井公治	1,035	0.94
電源開発株式会社	900	0.82
クレディ・スイス証券株式会社	862	0.79
クレディスイスインターナショナル	858	0.78
佐賀芳行	800	0.73
SBIイー・トレード証券株式会社自己融資口	800	0.73
バンクオブニューヨークジェシーエム クライアントアカウントジェイビーアール ティアアイエスジーエフイーエイシー	793	0.72

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	
定時株主総会・剰余金配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日

株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載)

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います

IRからのお知らせ

「メール配信サービス」をご利用ください(ご登録・購読無料)
 当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールにてお知らせしています
 ご登録はこちら http://www.transgenic.co.jp/jp/ir/mail_regist.html にて受け付けています
 メールアドレス変更の際にも、こちらよりご連絡ください

当社のIR活動について
 ご意見・ご感想をお聞かせください
 下記アドレスへのご連絡を
 お待ちしております
ir@transgenic.co.jp